

報告事項 イ

島根大学教育学部地域志向入試から繋がる新たな特別選考について

島根大学教育学部地域志向入試から繋がる新たな特別選考について、別紙のとおり報告
します。

令和6年12月26日

鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹

島根大学教育学部地域志向入試から繋がる新たな特別選考について

令和6年12月26日
教育人材開発課

島根大学令和6年度入学者選抜から教育学部の総合型選抜Ⅱにおいて、地域教員育成型として、鳥取県枠7名（募集人員14名）が新設^{*}されたことに伴い、当該入学者選抜により入学した本県学生等を対象に、教員採用まで一つのベクトル上に乗るような取組の一つとして、令和10年度（令和9年度実施）教員採用試験から新たな特別選考を導入します。

※令和7年度入学者選抜から総合型選抜Ⅰ「へるん入試」に変更され、へるん特定型（地域志向入試）として、地域教員育成型（鳥取県枠・島根県枠）各7名、合計14名で大学入学共通テストを課さない総合型選抜として実施

島根大学教育学部における1000時間体験学修を活用して学校体験活動（スクール・インターンシップ）を鳥取県内の公立学校において実施すること、及びその実績等を教員採用試験のインセンティブに活用した特別選考を導入します。

1 1000時間体験学修を活用したスクール・インターンシップの実施について

(1) ねらい

- ・地域課題・教育課題を認識し、その対応方策等について実践的経験を継続的かつ多様に積むことにより、教員として必要な実践力を獲得する。

(2) 対象学生

- ・地域志向入試で入学した学生（7人程度／毎年）

(3) スクール・インターンシップ実施時間

- ・鳥取県内の公立学校において合計200時間のスクール・インターンシップを実施

※島根大学教育学部の有する1000時間体験学修の一部を活用

- ・1・2年：80時間～100時間程度、2・3年：100時間～120時間に分割（2・3年次には最低100時間が必須）

※業務は学習プリント等の準備、採点補助業務、学習サポート（特別支援に係るものを含む）、休憩時間の児童生徒の見守り等、教員業務支援員とほぼ同様の業務を想定

※2・3年次にSIを実施する時間のうち、最低1/5時間（20時間～24時間）は特別支援教育や不登校生徒支援に係る体験を設定（特別支援学級や校内サポート教室における体験を想定）

■1・2年実施時期：1年2月～2年2月

■2・3年実施時期：2年2月～3年2月（最低100時間）

※2・3年において実施したSIのみ、評価対象

(4) 評価

- ・スクール・インターンシップの実施状況を評価し、教員採用試験（特別選考）におけるインセンティブとして活用

2 鳥取県の教員採用試験制度のインセンティブ等について

- ・鳥取県教育委員会において、1（2）・（3）を満たす学生のみを対象とした特別選考を、令和10年度（令和9年度実施）教員採用試験から新規導入予定
- ・採用予定数は鳥取県枠相当の7名程度とし、採用枠は一般選考の内数として設定
- ・対象試験区分等は、小学校教諭、特別支援学校教諭並びに中学校教諭及び高等学校教諭の国語・社会（地理歴史）・数学・理科・英語（地域志向入試に併せて設定）
- ・インセンティブとして、第一次選考試験免除（一般教養・専門試験（筆記試験））

3 今後の予定

- ・令和7年1月、対象学生に対して説明会実施（於：島根大学教育学部）
- ・令和7年5月頃、県教育委員会から島根大学へSIの募集

島根大学教育学部地域志向入試から繋がる新たな特別選考について(鳥取県教育委員会)

【目的】

- ◆山陰教師教育コンソーシアムの枠組において、島根大学教育学部と鳥取県教育委員会との連携により、地元で教員になる学生を育成
- ◆地域課題・教育課題に対応する実践力を備えた学生の育成をめざし、島根大学教育学部と鳥取県教育委員会とで協働して取組みを進めることにより、教員を質的・量的に確保(「地元の教育を地元の人材で」)
- ◆教職志向性の高い高校生の開拓から教員採用まで、一つのベクトル上に乗るような取組を構築

高等学校

島根大学

鳥取県教育委員会

鳥取県教育委員会

〈「未来の教師」育成プロジェクト
拠点校(8校)〉
鳥取東高等学校、鳥取西高等学校、
八頭高等学校、倉吉東高等学校、
倉吉西高等学校、米子東高等学校、
米子西高等学校、境高等学校

支援・啓発
調査研究

OPEN

島根大学体験入学等

※プロジェクト参加生徒向けの特別な機会
の創出

教職志向性の向上・教育学部の理解促進

- ・大学理解促進
- ・早期に教員採用試験制度の情報収集
- ・先輩(地元出身大学生)に学ぶ、先輩と繋がる

大学への円滑な接続

教員養成の質的向上

大学入試制度改革

※総合型選抜Ⅱにおいて、「地域教員育成型」に**鳥取県枠(7名)の新設**

- ※令和7年度入試から総合型選抜Ⅰ「へるん入試」に変更、へるん特定型(地域志向入試)として実施
- ・読解力、思考力、表現力、主体的な学びの経験と教職への意欲を重視

- 1000時間体験学修の充実
 - ・鳥取県公立学校におけるスクール・インターンシップの実施
 - ・「とっとり未来教師セミナー」への参加
 - ・CHA3(チャチャチャ)プログラムへの参加等

連携

〈教育人材開発課・高等学校課〉
○大学から拠点校に対する支援・啓発、調査研究に対する協力
○取組内容の取りまとめ、事業評価

教員採用試験制度の工夫

※大学入試制度改革と連動した新たな試験制度(特別選考)の導入

受験メリットの創出による教員確保

- ・1000時間体験学修を活用したスクール・インターンシップの実績を評価
- ・+大学推薦等により、一部試験免除のインセンティブ

実績を受験のインセンティブに活用

連携

〈教育人材開発課・市町村(学校組合)教育委員会・公立学校〉
○スクール・インターンシップ等の受入協力・学校資源提供等

期待される効果

- 教職志向性の高い高校生の育成と教育学部の理解促進による大学への円滑な接続
- 生徒・学生が早期に教員採用試験制度等の情報を得ること等による意欲の向上と大学における教員養成の質的向上
- 鳥取県出身の優秀な教員の確保